

## ベルマーク新聞 1月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## 保護者と子どもたちが「コラボ活動」

 川崎市立下小田中小が累計300万点達成

①協賛会社別の紙コップにまとめていく ②一枚一枚をいねいに ③番号をよく見て仕分け ④マークを切る担当も ⑤ベルマークで買ったオセロゲームを持って、成果報告の練習

神奈川県川崎市の市立下小田中小学校(八幡博子校長、児童1101人)のこれまで集めたベルマークが昨年7月、300万点を超えました。

ベルマーク活動を主に担っているのはPTA福祉委員会。マーク回収は校内だけでなく、近隣のスーパーマーケットにも回収箱を設置し、地域の協力も得ています。12月には貯めた預金を使って、将棋のボードゲーム6セットと、オセロゲーム10セットを購入しました。これらの商品を決めたのは、実は5、6年の福祉委員会。PTAの保護者と児童の福祉委員会が「コラボ活動」をした成果だったのです。

福祉委員会の子どもの活動内容は、3種類の募金とベルマーク。他にも

委員会がある中で、福祉委員を選んだ理由は「昇降口前で協力を呼びかけている姿を見て興味をもったから」「福祉について知りたいと思ったから」「困っている人がいることをテレビで知って、自分も何かしたいと思ったから」とそれぞれですが、みんなに共通しているのは、人を助けることへの関心の高さ。活動にやりがいを感じ、2年連続で福祉委員を選んだ児童もいるほどです。前期には、自分たちの行動が何に役立つのかについて調べ学習もして、問題意識を高めてきました。

そんな子どもたちが保護者と一緒に取り組むのがベルマークの「コラボ活動」です。マークの仕分けに協力したり、目標商品を提案したりと、子どもたちが関

わることで、社会貢献活動の意義を考えるきっかけにもなりました。将棋とオセロも子どもたちが考えた案でした。雨の日や、校庭の改修工事中でもみんなで遊べる教材が欲しいと意見を出したそうです。

同校の視聴覚室で12月13日、活動がありました。保護者が細かい指示を出さなくても、積極的に動けるのが福祉委員の子どもたち。両手いっぱいマークを自分の席に持っていき整理したあと、番号を照らし合わせて、協賛会社別の紙コップに正しく仕分けていきます。委員会活動は45分間ありましたが、友達と協力しながら集中力を切らさずに取り組むことができました。

また、廊下では児童2人が朝会での

報告の予行演習。ベルマークで買ったオセロゲームを手に、抑揚をつけて紹介文を話す練習をしていました。

もうすぐ年度末のまとめの時期になります。児童の福祉委員会を担当する佐藤理恵先生は「4月に比べると、子どもたちは主体的に動いたり提案したりできるようになった」と大きな成長を実感しているとのことでした。

これからもたくさんの  
マークを集めてね!!



## 特別支援学校2校から感謝メッセージ

 栃木・岡本特別支援学校、青森・弘前第一養護学校

今年度、財団が備品・教材を寄贈した特別支援学校のうち2校からお礼のメッセージが届きました。

栃木県立岡本特別支援学校(平井謙司校長、児童・生徒46人)が希望したのは、室内カーリング、タグラグビーボール、ドッジビー、キンボールといったニュースポーツの用具と、電子ピアノ。ニュースポーツとは、競い合うことよりも楽しむことに重きを置いて新しく考案された、年齢差や障がいの有無にかかわらず楽しめるスポーツです。

室内カーリングは、キャスターの付いたストーンを滑

らせて、的に近づけるゲーム。力が弱いと的の手前で止まってしまう、強すぎると的をはじいてしまうため、力加減を調節する力が求められます。

青森県立弘前第一養護学校(佐藤忠全校長、児童・生徒190人)から届いたのは、贈った室内カーリングセットやバランスボール、アクティブボード、タイマー、ボードゲームを使っている様子を収めた写真。小学部、中学部、高等部の全学年の子どもたちが備品を活用している様子を財団ホームページでご紹介していますので、ぜひご覧ください。



室内カーリングをする岡本特別支援学校の児童